

Title	8ミリVTRの製品特性に関する一考察
Sub Title	
Author	木村貴俊(Kimura, Takatoshi) 片岡一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第406号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0406">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0406</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 木村貴俊

主査 片岡一郎

副査 滝沢 茂

所属ゼミナール 滝沢 茂 研

青井 倫一

## 8ミリVTRの製品特性に関する一考察

今春、次世代VTRと期待される8ミリVTRがいよいよ発売された。この8ミリVTRが次世代VTRと期待されるのは、①その規格が世界の127社により統一されていること、②コンパクトなカセットにより本体の小型軽量化が可能であること、③長時間のハイファイ録音が可能であることなどが、主な理由である。

本研究においては、こういった特徴をもった8ミリVTRがどの程度、普及する商品なのか、また、どんな属性をもった消費者が、そのイノベーターになりそうなのかを予測しようとしたものである。そのため、本研究では、8ミリVTRの“知覚された製品特性”を考察することにより、これを可能にすることを試みた。

まず、最初に、8ミリVTRとカセット・テープレコーダーの製品特性を比較検討することにより、その普及についての考察を行なってみた。カセット・テープレコーダーを比較の対象として選んだのは、そのイノベーションが8ミリVTRのそれと極めて類似していると思われたからである。

次に、8ミリVTRの製品特性の知覚状況を中心とした消費者調査を通じて、どんな属性を持った消費者が、8ミリVTRのイノベーターになりそうなのかを予測してみた。また、その見つけ出したイノベーターが、一般的なイノベーターの資質を有しているか否かについても考察してみた。

そして、最後に、これらの分析結果に基づき、8ミリVTRのマーケティング戦略への提言、並びに普及研究（とりわけ製品特性研究）への提言を施した。